

静岡県総合計画

富国有徳の理想郷“ふじのくに”のグランドデザイン

[基本構想]

(案)

平成 22 年 9 月

(目次)

計画の基本方針	1
1 富国有徳の考え方	1
2 富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり	1
(1) 基本理念	1
(2) 目指す姿	3
(3) 取組の視点	5
(4) 計画期間	5
“ふじのくに”づくりの戦略体系	6
1 「命」を守る危機管理	6
2 “ふじのくに”の徳のある人材の育成	8
(1) 「有徳の人」づくり	8
(2) 「憧れ」を呼ぶ“ふじのくに”づくり	10
3 “ふじのくに”の豊かさの実現	12
(1) 一流の「ものづくり」と「ものづかい」の創造	12
(2) 「和」を尊重する暮らしの形成	14
(3) 「安心」の健康福祉の実現	16
4 “ふじのくに”の自立の実現	18
(1) ヒト、モノ、地域を結ぶ「基盤」づくり	18
(2) 「安全」な生活と交通の確保	20
(3) 地域主権を拓く「行政経営」	21
地域づくりの基本方向	22
1 基本的考え方	22
2 地域圏	23
3 地域圏の目標	24
(1) 伊豆半島地域	24
(2) 東部地域	25
(3) 中部地域	26
(4) 志太榛原・中東遠地域	27
(5) 西部地域	28
県民幸福度の最大化に向けた重点取組	30

計画の基本方針

1 富国有徳の考え方

文化は、魅力があれば憧れられるものであり、その求心力によって中心性を持ち、他に模倣されることによって普及し、普遍性を獲得する。

地球上の様々な国や地域が経済力を得て、ヒト、モノ、情報が大交流する時代には、憧れを集め、誇りの持てる生き方や暮らしの立て方、安全で美しいと感じることのできるたたくまいといった文化の力を高め、世界の誰からも憧れられ仰ぎ見られる富士山のような、人を惹きつける文化を持った国づくり、地域づくりが大切となる。

豊かさの集積を「富」、廉直な心を堅持する者のことを「土」とすれば、両者を兼ね備えたものが富士であり、富士山は、「豊かにかつ廉直に生きること」を示唆する。

「富国有徳」は、徳のある人が、物心ともに豊かに暮らす、ヒトとモノをともに大切にする国や地域を実現しようとする考え方であり、堅実な経済成長を実現しながら、県民誰もがよりよく暮らし、文化力を高め、他を惹きつける魅力を磨くという理想郷づくりに向けた、富士の名を体したビジョンである。

2 富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり

(1) 基本理念

基本理念	富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり “ふじのくに”の徳のある人材の育成 “ふじのくに”の豊かさの実現 “ふじのくに”の自立の実現
------	--

我が国は、東洋文明と西洋文明を受容し、先進国として繁栄を収め、それを維持してきた。本県は、その日本の真ん中、東海道の中央に位置し、東の文化と西の文化が交流し、東西文明が調和する地域である。

県内には、多様な自然が広がり、各地の環境に応じた生活が営まれ、様々な経済活動が行われている。日本の縮図と言える静岡県は、ヒト・モノ・大地の潜在力である「場力」を有しており、富国有徳を形にし、日本の理想郷を成す要因や条件、可能性を十分に備えている。

「富士」は、物の豊かさと心の豊かさを示すとともに、尽きることのない価値の源泉としての「不尽」、不老長寿のシンボルとしての「不死」、そしてオンリーワンを表わす「不二」など、歴史をさかのぼると様々な漢字が当てられ、そうした多様な意味を含めて、ひらがなで「ふじ」とも書かれる。

富士を有する静岡県は、県政運営を行う上での基本理念として、「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」を掲げ、「ふじ」が意味する多様な価値を希求し、多彩な広がり

を有する“ふじのくに”になることを目指していく。

現在、国内では、これまでの中央集権的な全国一律の行政システムや国土の均衡ある発展といった考え方が、国の発展に一定の成果をもたらしてきたものの、画一的な資源配分により、地域の活力や個性を失わせる要因にもなっていたとの反省から、東京一極集中を脱して、それぞれの地域が持つ多彩な力を引き出すことによって、我が国全体の発展を支えていくことが期待されている。

こうしたことから、これまでの都道府県という枠組みを越えて、先進国並みの人口、経済規模を持った複数の広域的な地域が、権限と財源と責任を持って、その地域の特性を活かしながら互いに競いあいそれぞれの力を高めていく、一国多制度の枠組みによる地域主権の確立が望まれる。

地域主権の実現に向けて、地域の多様性や住民の主体性を重んじ、地域の実情に応じて将来の姿を自ら構想し、地域の自立的な発展の可能性を広げていくとともに、地域を構成する個人、企業等の各主体においても、地域が有する能力を十分に発揮していくために、それぞれが自立していくことが必要である。

徳のある人材の育成と豊かさの実現を図り、必要な場合には相互に助け合いながら、“ふじのくに”の「徳のある、豊かで、自立した」地域づくりを進めていく。

「徳のある、豊かで、自立した」地域づくり

“ふじのくに”の徳のある人材の育成

社会を形成するのは人であり、人々の生き方や暮らし方は、地域の文化になるとともに、時代の状況や将来の社会の姿を映す。徳のある社会の形成を目指して、知識、教養を備え、廉直な心を大切に徳のある人の育成を進めていく。

また、人は社会との関係を広げていくことで成長し、豊かになる。相手を知るとは自分を知ることであり、相手と自分の両方の文化を理解することである。人を惹きつける文化を創出、継承し、多様な交流、連携を進め、文化と人が一体となって活気ある豊かな社会の実現につないでいく。

“ふじのくに”の豊かさの実現

モノを作るということは、同時に資源を使うことであり、その使い方には、時代背景や使う人の考え方、地域に応じたスタイルがある。ヒト、モノ、大地の「場力」を最大限に活用し、人々の暮らしや生き方の質の向上につながるよう経済と産業の活力の向上を図る。

また、豊かに暮らすということは、経済的に豊かであるばかりでなく、空間的、精神的にも豊かで、美しいといった価値が満たされた生活を送ることでもある。やすらぎや潤いの得られる生活空間の中で、健やかで安心して自分らしい生活を送るための環境を整え、物の豊かさと心の豊かさを両立できる社会生活環境の実現を図る。

“ふじのくに”の自立の実現

地域が持続的に発展していくためには、自助、共助により、一人ひとりの才能と意欲が発揮され、個人、家庭、企業、地域社会が自立し、将来に希望の持てる社会としていくことが必要である。

交通基盤や都市基盤の安全性や利便性を高め、治安機能を強化し、戦略的に行政経営を行うことなどにより、県民それぞれの活動を支えながら、“ふじのくに”の自立の実現を図る。

一国は地域の集合体であり、“ふじのくに”における地域づくりが成功すれば、他の地域のモデルとされることによって普遍性を獲得し、国の繁栄をも牽引する可能性がある。静岡モデルとして、全国の先例となるという気概を持って、富国徳の理想郷“ふじのくに”づくりに挑む。

(2) 目指す姿

目指す姿	「住んでよし 訪れてよし」 「生んでよし 育ててよし」 の理想郷 「学んでよし 働いてよし」
------	--

物の豊かさとともに、心の豊かさも同じように大切にすることは、この時代に生きる私達に問われている課題であり、ヒマラヤの小国、ブータンの国王の提唱した「国民総幸福度」GNH (Gross National Happiness) に通ずる考え方である。

こうした考え方の下、本県では「県民幸福度」の最大化を目標に、県民が誇りと希望を持ち、人生の質を高めながら活躍する社会の実現を図っていく。

幸福は人々の価値観に係わるものであり、幸せを感じる状況は一様ではない。世界中の情報に容易に接することができ、少子高齢化やグローバル化が進展する中で、身近な人との関係が変化し、異文化との接触の機会が増え、今後、社会の様々な場面で多様化が進むものと見込まれる。異なる価値観が共存し、多様性を尊重する開かれた社会は、活力に満ちた明るいものとなる。

こうした時代には、社会に多くの選択肢が用意され、選択の機会を得られることが、県民の幸福を増進させることになるものと考えられる。多様性を尊ぶことは、個人を尊ぶことであり、一人ひとりの理想を大切にすることにつながる。

理想郷を社会全体のイメージとして表すならば、「住んでよし」の地域であり、それは、周囲から見ると憧れを抱き惹きつけられる地域、言い換えると「訪れてよし」の地域である。

また、県民一人ひとりの立場で、生き方や成長のステージに応じた着眼をすれば、明日への活力にみなぎり、未来を築く子どもたちが生まれ、将来の夢を描きながら育てられる「生んでよし、育ててよし」の地域、加えて、人々が学校や仕事、生活での経験を

通じて自己の能力を伸ばし、モノに固有の価値を見出し、生き方や暮らしに厚みをつけて、豊かになる「学んでよし、働いてよし」の地域が理想となる。

静岡県は、「住んでよし 訪れてよし」、「生んでよし 育ててよし」、「学んでよし 働いてよし」の理想郷を目指していく。

「住んでよし 訪れてよし」の理想像

生活と自然が融合することで、家と庭一体の住まいづくりによる家庭へ温もりをもたらす住空間。それを包む、豊かな自然と美しい景観とともに、豊富で多様な食（材）を恵む大地や、誰もが自分の住む地域に誇りと愛着を持てる文化・風土。

安心して、物心ともに豊かに暮らし、国内外との活発な交流を通じて地域がにぎわい、人々の可能性が広がる社会経済の仕組み。

こうした社会の構成要素を医・食・住の充実の観点から磨き上げていき、人々を惹きつけ憧れられる“ふじのくに”を目指す。

「生んでよし 育ててよし」の理想像

安心と思いやりに満ちた地域の中で、若い世代の「2人から3人の子どもが欲しい」といった希望が十分かなえられ、温かい家庭を育むことができる人生。

安全・安心な食生活を礎にして、世代を越えて笑顔が広がり、社会や自分の生活をよりよくして、次代に引き継いでいこうとする志を抱き実現に向かって励む姿勢。

こうした生き方を可能にする社会を築いていき、将来に向けて明るい展望を描くことのできる“ふじのくに”を目指す。

「学んでよし 働いてよし」の理想像

学校で学び、仕事や生活から学び、芸術などに触れてより良い生き方を学べる、生涯にわたって自己を高めることができる学びの場。

年齢や性別を問わず誰もが能力と個性を發揮でき、多様な人材が働きながら自らの能力を磨いて、感動を呼ぶものづくりや経済の創造的発展とともに生活の質の向上を実現する場。

こうした自己実現を展開するステージを整えていき、自分の生き方を自由に選択できる“ふじのくに”を目指す。

これらの目指す理想郷の姿に近付けていくための道筋について、基本理念で示した「徳のある、豊かで、自立した」地域づくりの進め方の観点から明らかにするため、章「“ふじのくに”づくりの戦略体系」を表すとともに、特に、県や市町、地域住民、関係機関などが連携し、総力をあげて挑んでいくべき重点的な取組を、章「県民幸福度の最大化に向けた重点取組」で示す。

(3) 取組の視点

「経済発展は、経済システム自体の内部から生まれる」という考え方がある。富国徳の理想郷“ふじのくに”づくりに取り組むに当たっては、次のような視点を重視し、将来に対する洞察力を持って創意工夫を積み重ねながら、これまでの慣行にとらわれず創造的に見直しを行うことにより、経済・社会・行政が、大きく変革、発展していくよう戦略的に挑んでいく。

静岡県が持つ「場力」の最大限の活用

- ・ 本県のヒト・モノ・大地という地域が持つ独自の潜在力である「場力」を掘り起こし、最大限に活用する。

世界、アジア、日本国内各地との交流拡大

- ・ 国内外からヒト・モノ・情報が活発に行き交う仕組みを構築し、他地域や異分野との交流による新たな結びつきを創出する。

イノベーション（新結合）による新たな価値の創造

- ・ “ふじのくに”づくりに向けて、地域の資源や担い手、取組手法などを、新結合という視点で組み換え、新たな価値や新たな可能性を生み出す。

現場主義に基づく発想と実践

- ・ 県民幸福度の最大化を目指し、現場に赴き、現場から学び、現場に即した施策を発想し実践するという現場主義に徹する。

(4) 計画期間

計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成する。

基本構想は、平成22年度から概ね10年間を想定し、本県が目指す姿を描く。

基本構想をホップ、ステップ、ジャンプで実現していくため、最初の4年間における具体的な取組を基本計画の中で明らかにしていく。

“ふじのくに”づくりの戦略体系

万全な危機管理の下に、すべての活動の源となる徳のある人材の育成を進め、物心ともに豊かな人生、社会を築き上げ、持続的に発展する自立した地域をつくり、美しく輝き、人々を魅了する「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」を実現する。

1 「命」を守る危機管理

【目標】

(危機管理)

- ・東海地震で想定される死者数(第3次被害想定数5,900人) 半減以下
- ・大規模災害時に必要不可欠な情報の共有化 100%

豊かな自然は様々な恵みをもたらすが、時として大地震、噴火、豪雨、感染症などで人々の暮らしを脅かしてきた。こうした災害の危機に備えることは“ふじのくに”づくりの最も大切な基礎であり、特に切迫性が一段と増している東海地震に備えた危機管理体制を充実することが極めて重要である。

このため、減災力や地域防災力の充実強化を図るとともに、災害に強い地域基盤の整備など総合的な危機管理を推進し、災害や被害が発生した場合には、県、国、市町、住民、企業、関係団体が一丸となり総力をあげて、的確に応急対策を施し、早期の復旧・復興を図る。

さらに、これまで培ってきた防災対策のノウハウを国内外に発信し、国際貢献に努める一方、防災交流を通じて、本県の防災力をより一層強化する。

減災力の強化

大規模地震や風水害などの自然災害、大規模事故、更にはテロや感染症による健康被害などあらゆる危機から県民の生命、身体及び財産を守る必要がある。

このため、県や市町における危機管理体制の確立や消防救急の広域化など大規模災害に立ち向かう組織体制を整備するとともに、外国人や一人暮らしの高齢者などの災害弱者に対する情報提供や救助など、きめ細かな対応を図る。また、迅速な救助活動に必要な道路、救護所、避難所などの情報のデータベース化や緊急搬送手段を確保するための空のネットワークの構築、事業継続計画(BCP)の普及などにより、あらゆる危機事案に対応できる体制を確保する。

地域防災力の充実・強化

少子高齢化社会において地域防災力を保持増強するためには、自助・共助により一人ひとりの役割が果たされ、それを公助により支えることが不可欠である。

このため、自主防災組織や消防団の活性化、事業所の防災対策の充実により地域防災を支える組織を強化するとともに、防災リーダーなど防災に関わる人材の育成や防災意識の

向上、救助用資機材や避難生活用資機材を確保するなど地域防災力の充実強化を図る。

防災力の発信

大規模災害が発生した場合には、他の地域からの援助協力が必要となる。自助、共助の考え方は、個人やコミュニティに止まらず、地域や国の枠を越えて成り立ち、平常時における絆を強化する取組は、発災時におけるリスク分散にもつながる。

本県がこれまで東海地震対策などで培ってきた防災に関わる経験、ノウハウ、技術、知識等を国内外に伝え、国際的な貢献や交流を行うとともに、こうした防災力の発信を通じて、防災に関わる研究や人材育成を一層進めるなど、自らの防災力も強化する。

災害に強い地域基盤の整備

東海地震などの大規模災害において、建物等が倒壊せず使用可能であることが、その後の生活再建や社会復興を大きく左右する。地震の発生や気候変動に対処するため、「減災」の考えに基づいたハード・ソフト一体となった基盤整備が重要となる。

このため、学校、病院などの公共施設や住宅等の耐震化を進めるとともに、道路、河川、港湾の改築・修繕・長寿命化や自然災害に対しても強い、防災に必要な社会資本の整備と維持管理を図る。また、迅速かつ円滑な防災対応のため、防災に関する情報の伝達、提供、周知を図り、災害に強い地域基盤を整備する。

2 “ふじのくに”の徳のある人材の育成

【目標】

(教育)

- ・「思いやりを持って行動できる有徳の人が増えている」と感じている人の割合 50%
- ・「文・武・芸」のいずれかの分野において自己を磨く努力をしている人の割合 80%

(文化・観光)

- ・1年間に芸術や文化を鑑賞した人の割合 90%
- ・1年間に芸術や文化の活動を行った人の割合 50%
- ・「富士山の日」の趣旨に沿った取組をした人 100%
- ・観光交流客数 30%増
- ・外国人留学生数 4,000人

(1)「有徳の人」づくり

“ふじのくに”の礎は人材の育成にあり、自らの資質能力を伸ばし、多様な生き方や価値観を認め合い、かかわり合いながら、より良い社会づくりに参画する、未来を拓く有徳の人づくりが必要である。

このため、学校で学び、仕事や生活の現場から学び、芸術に接し、より良い生き方を学ぶ「一に勉強、二に勉強、三に勉強」という生涯を通じて学ぶ姿勢を醸成し、学校や家庭、職場や地域が連携して、「文・武・芸」三道のいずれをも尊ぶ人材の育成を目指す学校づくりをはじめ、子どもから大人まで、人生のそれぞれの段階に応じた「学びの場」を提供し、各分野で活躍する多種多様な人材が育つ環境を整える。

心と体の調和した人間形成の基礎づくり

子どもの社会性やコミュニケーション能力の低下が危惧される中、人格形成を幼児期から育む環境づくりが求められる。

男女が共に子どもを育み、地域ぐるみで子育てを支援することで、家庭の教育力を高めるとともに、幼稚園や保育所における教育・保育の充実、幼稚園・保育所の連携を図り、心と体の調和した人間形成の基礎を築く環境づくりを進める。

「文・武・芸」三道の鼎立を目指した学校づくり

心身の調和した「徳のある人」を育てるためには、学問を尊び、スポーツに親しみ、芸術を愛するという、「文・武・芸」三道の鼎立が大切である。

きめ細かな指導の充実による「確かな学力」の育成、キャリア教育の推進、科学技術や情報通信技術の進歩への対応、スポーツや芸術に触れる機会の充実などを進めるとともに、教職員の生徒と向き合う時間の確保や資質の向上、特別支援教育の充実、私立学校への支援など、三道の鼎立を目指した学校づくりを展開する。

生涯学習を支える社会づくり

より良い生き方を求める充実した人生を歩むためには、生涯にわたって学び、人格の完成を目指すこととともに、住んでいる地域のことを知るための「学びの場」の形成が重要である。

地域の歴史や文化などの魅力に触れる機会となる地域学の推進などにより、一人ひとりが地域との絆を深める中で、生涯にわたり自ら主体的に学び続けることができる環境づくりを進めるとともに、大学コンソーシアムの推進などにより、高等教育機能の充実と大学を拠点とした地域づくりを進め、生涯学習を支える社会の実現を目指す。

(2)「憧れ」を呼ぶ“ふじのくに”づくり

ヒト、モノ、情報の交流や様々な文化との出会いは、自己を再認識する機会となり、相互の理解や信頼を深め、活動領域を広げるとともに、地域に活気や賑わいをもたらすことから、国内外から人々を惹きつけ憧れを呼ぶ地域づくりが大切となる。

このため、多彩で魅力ある文化の創出と継承や、スポーツに親しみ技量を高める環境づくり、多文化共生と地域主権の時代にふさわしい新たな地域外交の推進により、地域の魅力を高める。さらに、ヒト、モノ、情報の活発な交流を支えるネットワークを充実し、観光をはじめ内外との多様な交流を拡大、深化させていく。

多彩な文化の創出と継承

文化は、人々に生きる喜びをもたらし、人生や地域の豊かさを表す。高度な経済成長を遂げ、ポスト東京時代へと歩み始めるにあたって、本県の培ってきた文化力をより高めていくことは、地域社会の創造的な発展へとつながる。

「ふじのくに芸術回廊」を形成し、国内外から憧れを抱かれる地域の実現を図るとともに、本物の文化に触れることができる機会の充実、伝統や歴史に培われた文化・芸術の保護、活用に取り組み、地域に根ざした多彩で魅力ある文化を創出し継承する。

また、富士山について、世界文化遺産の早期登録を実現するとともに、国民の財産として後世に引き継ぐための運動の展開や、保護と適正な利用の調和を図るための取組を進める。

スポーツに親しみ技量を高める環境づくり

スポーツは心身の健康をもたらし、生活に潤いや活力を与えるとともに、自分を知り、国や地域、世代、言葉の壁を乗り越えて互いを理解する人づくりの場を提供する。

ライフステージに応じたスポーツの振興や、優れた競技能力を持つスポーツマンの育成、スポーツイベントや観戦機会の拡充など、地域スポーツ団体や関連企業と連携し、スポーツを通じた交流を促進しながら、生涯を通じて誰もがスポーツに親しみ技量を高められる環境づくりを行う。

多文化共生と新たな地域外交の推進

経済や情報のグローバル化が進み、日々の暮らしにも影響が見られる中で、自らの地域や文化に対する誇りと生活の豊かさを保つためには、国や地域による文化の違いを相互に理解し、国内外の人々と積極的に関わり、認められる自立した地域となる必要がある。

様々な文化に触れ合う機会や環境を整え、国際理解の促進に取り組み、多文化共生社会の形成を進めるとともに、留学生や外国人技術者などが地域との良好な関係の中で安心して活躍できるよう、生活や就業、就学支援を推進し、あわせて、環境や防災分野での支援といった国際的な協力や貢献を行うとともに、海外との交流において、政府間外交によらない自治体や民間による交流を促進するなど、地域主権の時代にふさわしい新しい地域

外交を展開する。

交流を支えるネットワークの充実

多様な交流の実現のためには、ヒトやモノ、情報が域内はもちろんのこと、遠隔地とも短時間で円滑に行き交え、本県の中心性を実感でき、地域の魅力の新結合により広域的な価値を高められるネットワーク環境が必要である。

富士山静岡空港の就航地拡大をはじめとする広域交通ネットワークの充実、鉄道・バス等の公共交通機関の維持、活性化など、国内外につながる広域交通網と地域交通網が連携した交通体系の整備を進めるとともに、ICTの積極的な活用と情報通信基盤の整備を促進し、日本海に至る南北軸の交流をはじめ、多様な交流を支えるネットワークを充実する。

誰をも惹きつけ、もてなす魅力づくり

“ふじのくに”は誰をも惹きつける力や可能性を有しており、これをさらに磨き輝かせ、訪れる人をもてなしの心で迎えることで、何度でも訪れたい地域となる。

もてなしの心があふれる体制を整え、富士山をはじめとする世界に誇れる自然や文化、芸術、産業といった多彩な資源を磨き、新たな視点で魅力を創造し、国内外の人々誰をも惹きつけるブランドを構築しながら、国際観光地の形成や新しいツーリズムの推進を図る。

多様な交流の拡大と深化

遠隔地との交流が容易となり、大量の情報が瞬時に行き来する大交流の時代にあっては、世界的な視野で差別化を図り、他の地域にはない個性ある魅力を発信し、内外との交流を拡大していくことが求められる。

国際的な学会会議やイベント、展示会の開催や誘致、都市と農山漁村地域との交流とともに、学術を中心とする文化、芸術等との連携による、学生をはじめとする若者が集い賑わう「学住一体のまちづくり」や多様な住まい方を前提とした移住・定住の促進など、“ふじのくに”の魅力を最大限に活用して多様な交流の拡大と深化を促していく。

3 “ふじのくに”の豊かさの実現

【目標】

(全般)

- ・静岡県が住みよいと思っている人の割合 80%
- ・1人当たり県民所得 30%増
- ・食料自給率(生産額ベース) 70%
- ・合計特殊出生率 2
- ・人口の社会移動 転入超過

(経済・産業)

- ・県内総生産(名目) 20兆円
- ・「食」関連産業の県内生産額・販売額 1兆円増
- ・年間有効求人倍率 1.2以上

(暮らし・環境)

- ・環境保全活動を実施している県民の割合 100%
- ・「自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う」人の割合 80%

(健康・福祉)

- ・「自分の住んでいるまちが子どもを産み、育てやすいところ」と感じている人の割合 80%
- ・自立高齢者の割合 90%
- ・自立し社会参加していると感じている障害のある人の割合 70%

(1) 一流の「ものづくり」と「ものづくり」の創造

産業は、新たな価値を創出する「ものづくり」であり、ヒト、モノ、大地の資源を新しい視点で組み合わせる「ものづくり」でもある。本県は、多彩な産物、豊富な水、高度な技術などモノを生み出す様々な資源を有しており、こうした資源を最大限に生かしていくことは、「もったいない」の考えに通じる文化ともなる。

一流のモノを使い一流のモノを作る産業を興し、モノを大切に使うことにより、豊かさへとつなげていく。

あわせて、健康、環境など、今後の経済成長を担う次世代産業の育成、活気ある地域産業の振興を図るとともに、生きる力の源となる農林水産業を強化するため、新規参入の促進や経営体の強化による活力ある生産構造への転換、豊かな農山村づくりなどに取り組む。

さらに、新たな雇用の創出をはじめ、誰もが能力を発揮し、活躍できる就業環境の充実、本県産業を支える人材の育成を進めていく。

新結合による「場力」の向上

成熟しつつある社会・経済環境の中において、本県に潜在する資源や担い手などを新たな視点で組み合わせ、新しい価値を生み出す「新結合」により産業を興し、経済が継続的に発展する好循環を導いていく。

地域が自立的に発展し豊かになるためには、域外に開かれつつも域内で自己完結し得

る、地産地消を軸とする経済圏の形成が重要となることから、本県の持つ豊かな地域資源を最大限に活用し、1次、2次、3次産業の有機的結合による6次産業を創出し、「ふじのくにグリーンニューディール」を戦略的に進め、「食と農」を軸に新しい産業を興すなど、新結合による「場力」の向上を図る。

次世代産業の創出

グローバルに企業間、地域間の競争が展開される中で、本県経済が持続的に発展していくためには、企業家が時代の動きを先取りし、未来につながる産業構造を形成していくことが必要となっている。

静岡新産業集積クラスターの推進をはじめ、健康・医療・福祉、環境、ロボット、光、航空宇宙など成長が期待される分野への参入支援、創業者やベンチャー企業等の育成、スポーツ産業、コンテンツ、デザイン産業、物流産業の振興、ものづくりを支える研究開発、国内外からの企業誘致などを産学官の協働により進め、次世代産業を創出する。

活気ある地域産業の振興

中小企業が個性や能力を生かし、経済の難局に柔軟に対応し活躍することは、地域経済が成長する原動力となる。

本県経済を支え、豊かな生活をもたらしてきた「ものづくり」の技術や技能を継承、活用し、モノやサービスの価値を磨く「感動を呼ぶものづくり」を拡げるため、経営革新による中小企業の経営力強化や、円滑な資金調達、海外展開の支援、商業・サービス産業の振興などを進める。

生きる力の源となる農林水産業の強化

食は生きることの一番の基礎であり、水・緑・大地に根ざし食を提供する農林水産業を大事にすることは、国や地域の発展の基盤となる。

農林水産業就業者の確保、育成や経営体の強化などにより、活力ある生産構造への転換を進めるとともに、耕作放棄地の再生利用、県産材の供給力の向上と需要拡大、水産物の生産流通改革などにより、健康と生きる力の源となる農林水産業を強化する。

誰もが活躍できる就業環境の実現

生涯にわたって自らの職業能力を高め、開かれた機会の下にそれを存分に発揮し、働きがいを実感できる環境が求められている。

働きたい失業者、若年者、障害者、高齢者、外国人が、就業の機会を得られ、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）する、誰もが能力を発揮して活躍できる就業環境を実現するとともに、再チャレンジや成長分野へのキャリアアップなどを支援する職業訓練の充実により、産業を支える人材の確保、育成を図る。

(2)「和」を尊重する暮らしの形成

県民が心豊かで質の高い生活を送るためには、生活と自然の融合により、ヒト、モノ、社会の調和を尊重した暮らしを形成し、それを次代に継承していくことが必要である。

このため、住まいに自然とのふれあいを取り入れた暮らし空間倍増の実現をはじめ、安全で安心できる心豊かな消費生活の推進、環境に負荷の少ない低炭素・循環型社会の構築、美しい景観や自然の継承により、暮らしの質の向上を図るとともに、暮らしを支える多様な主体が活躍する暮らしやすい社会の仕組みづくりを進める。

快適な暮らし空間の実現

少子高齢化の進行や家族形態の変化、ライフスタイルの多様化が進む中、自然から離れた都会での生活では味わえない、自然とのふれあいや家族との団欒、地域とのつながりを大切にしたい、暮らしやすい空間の広がる環境が求められている。

家・庭一体となった住まいづくりや県産材を活用した質の高い住宅の普及、住宅の耐震化や高齢者向け住宅の整備に取り組むとともに、水、大気などの良好な環境を確保し、快適な暮らし空間倍増の実現を図る。

安全で安心できる心豊かな消費生活の推進

インターネットの普及等により商品・サービスに関する情報量が増大し、購入の際の利便性が飛躍的に向上するなど、豊かな消費生活の可能性が広がる一方で、消費者各自の自立性が求められるとともに、偽装表示や悪質販売などが食の安全や健全な消費生活を脅かす事態も生じている。

消費生活に関する情報提供や消費教育を充実するとともに、商品・サービスの安全性や信頼性の向上、消費者被害の防止と救済、生活衛生水準の確保を図り、安全で安心できる心豊かな消費生活の実現に取り組む。

地球を守る低炭素・循環型社会の構築

人類は地球環境やその恵みにより生命を育み発展を遂げてきた。しかし、人口増加や大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済システムによる地球温暖化、環境破壊などが世界共通の課題となっており、その解決に向けて英知を結集し対処していかなければならない。

県民や事業者がモノを使い、モノを作る姿勢や仕組みを、温室効果ガス削減や3Rを通じて見直していくとともに、太陽光やバイオマス、温泉といった再生可能エネルギーの有効利用など、地域の自発的な活動を促し、低炭素・循環型社会を構築する。

自然と調和する美しい景観の創造と保全

自然とともに人々が生活を営む中で形成されてきた美しい景観は、人々に地域への愛着と誇りを抱かせ、多くの人を惹きつけ、心を動かす大きな力となる。

自然景観や農山漁村の景観を、背景にある土地の風土や歴史、文化とともに大切に保

全するとともに、水や緑を活かした都市空間を形成し、自然と調和する美しい景観を創造、保全する。

自然との共生と次世代への継承

美しい富士山を擁する“ふじのくに”には、多様な動植物が生息・生育しており、“ふじのくに”は、美しく豊かな自然と共生し、日本の美しさを映す姿として、未来へと自然環境を保ち続けていくことが求められる。

本県の豊かな自然環境の保全や適正な利用による生物多様性の確保とともに、県民が自然とふれあい、環境について学ぶ機会を拡充することにより、豊かな自然と共生する社会を形成し、それを次世代へ継承する。

誰もが暮らしやすい社会の仕組みづくり

価値観の多様化、核家族化や地域における人と人とのつながりの希薄化などにより、社会全体の活力や暮らしやすさの低下が懸念される一方、社会のために役に立ちたいと思う人も増えており、地域の人々と助け合いながら各自の自立を促す社会の仕組みをつくることが重要となっている。

地域コミュニティの強化や、地域が抱える課題の解決に取り組むNPO活動の支援などにより、住民による共助の取組を促すとともに、人権尊重の意識が定着し、性別などに関わりなく、すべての人が個性を生かし能力を発揮できる誰もが暮らしやすい社会づくりを進め、県民の自立を支える社会環境の充実を図る。

(3)「安心」の健康福祉の実現

一人ひとりの個性やライフステージに応じて、安心して健やかに自分らしい生活をすることはすべての県民の願いである。

このため、地域社会全体で子育てを支え、子どもを願う人が安心して子どもを育てることができる環境を整え、社会活力の維持・向上を支えるとともに、安心できる医療の提供と健康づくりの推進、障害のある人の自立と社会参加の支援、長寿者がいきいきと暮らせる環境やケア体制の充実、希望や自立につなぐセーフティネットの整備などにより、県民だれもが生涯を通じ、健康で、生きがいを持ち社会の中で意欲と能力を発揮して暮らすことができる社会の実現を目指す。

安心して子どもを育てられる環境整備

子どもは社会に希望と活力をもたらす。理想の子ども数を聞くと、「2人から3人」とする割合が高く、こうした希望がかなえられ、親子の笑顔があふれる社会を目指す。

子育てを支援するネットワークの形成など地域における子育て環境を整備するとともに、ニーズに応じた多様で質の高い保育サービスの提供、共働き世帯等の児童への放課後支援、子どもや母親の健康の保持と増進、保護や支援を必要とする子どもや家庭への取組を充実し、安心して子どもを育てられる環境を整える。

安心医療の提供と健康づくりの推進

誰もが健康に人生を送ることを望んでおり、必要な場合には、安全で質の高い医療を速やかに利用したいと考えている。

救急医療体制の充実や質の高い患者本位の医療サービスの提供などを目指し、医療人材の確保や医療機関の連携、高度専門医療等の提供を進めるとともに、医薬品の品質と安全性の確保や生活習慣病予防対策等に取り組み、安心医療の提供と健康づくりを推進する。

障害のある人の自立と社会参加

障害のある人が、住み慣れた地域で、その人らしく輝きながら、地域の人々とともに暮らす社会を実現することが重要である。

障害の特性や程度、ライフステージに応じた相談、支援体制を確保するとともに、障害のある人が働く幸せを感じられるように就労支援を行い、地域におけるきめ細かな支援を受けられるように福祉サービスを拡充するなど、障害のある人の自立と社会参加に向けた支援を充実する。また、スポーツや文化、芸術を通じて障害のある人の社会参加を進めるとともに、障害のある人への理解を深めていく。

いきいき長寿社会の実現

平均寿命が延び、高齢化が進む中で、健康な長寿者が増加している。家族や地域の人々と長寿を喜び、長寿者が元気に生きがいを持って、その意欲と能力を活かし、自分らしくいきいきと暮らす社会は、世界に誇ることでできる地域の姿となる。

長寿者を敬い、尊び、祝う県民意識の向上とともに、生きがい活動や社会参加の促進など、長寿者がいきいきと暮らすことができる環境を整える。あわせて、介護人材の確保や適正な介護・福祉サービスの提供、地域の特性に応じたケア体制の整備とともに、総合的な認知症対策の推進や長寿者とその家族に対する相談体制の充実など、長寿社会に対応した共に支えあう地域づくりを進め、いきいき長寿社会を実現していく。

希望や自立につなぐセーフティーネットの整備

社会の発達を促し、地域が活力を得るには、意欲と能力のある者が挑戦し、活躍できる環境とともに、保護や支援を必要とする人や家庭が、安心できる生活を取り戻していくための社会的援助の仕組みが必要である。

経済的に困窮している家庭が生活基盤の崩壊を招くことのないよう、生活援護等を行うとともに、心の危機に対しては、予防、相談、ケア体制の充実による自殺対策を図るなど、希望や自立につなぐセーフティーネットを整える。

4 “ふじのくに”の自立の実現

【目標】

(交通・基盤)

- ・中心都市等への30分行動圏人口カバー率 93%
- ・日ごろ生活を営んでいる範囲において、都市機能が充足していると感じている人の割合 60%

(防犯・警察)

- ・刑法犯認知件数 30,000件以下
- ・交通(人身)事故の年間発生件数 30,000件以下

(行政経営)

- ・財政健全化の状況 経常収支比率 90%以下
実質公債費比率 18%未満
県債残高(通常債) 2兆円程度を上限
将来負担比率 400%未満
- ・県から市町への権限移譲数(法律数) 日本一
- ・行政透明度 日本一

(1) ヒト、モノ、地域を結ぶ「基盤」づくり

地域の自立を促し、快適で安心できる生活を送るためには、豊かな自然に恵まれ、農林水産物などを供給する多自然共生地域と、ヒト、モノ、情報で賑わう都市地域において、特色ある地域づくりにより魅力を高めるとともに、ヒト、モノが内外を活発に行き交うことのできる、利便性が高い安全な社会基盤が必要である。

このため、身近な道路の整備や河川管理、生きる力の源となる農林水産業の生産基盤の強化、中山間地域等の集落機能の維持などにより、活力ある多自然共生地域の形成を図るとともに、都市の特色を活かし、都市機能を集積することにより、集約型で暮らしやすい市街地の形成などによる、賑わいと潤いを生む都市空間の創造に取り組む。さらに、高規格幹線道路、港湾、空港など、陸・海・空の交通手段が円滑に連結した経済や暮らしを確実に支える交通基盤の拡充を進める。

活力ある多自然共生地域の形成

四季折々に変化する美しい自然や景観、地域固有の歴史とともに培われた文化を有し、高品質の農芸品や水産物、美林を生み出す多自然共生地域は、県民の財産であり、“ふじのくに”の活力源となる。

安全で快適な暮らしを支える道路や河川などの生活基盤の整備を進めるとともに、農地、森林、港など農林水産業の生産基盤を整え、生産性の向上や供給体制の強化、農山村地域が持つ多面的な機能の発揮に取り組み、活力ある地域の形成を図る。

特に、過疎・中山間地域においては、各地特有の魅力を生かし、フロンティアを拓くとともに、多様な主体の連携による社会的機能の維持・向上を図る。

賑わいと潤いを生む都市空間の創造

魅力ある都市の形成は、ヒトやモノが活発に交流する賑わいをもたらし、それがさらに人々を惹きつけ、地域の発展を牽引するとともに、そこに住む人々に心の豊かさや潤いを与える。

都市の特色を生かし、都市機能を集積することにより、集約型で暮らしやすい市街地の形成を図るとともに、人々が集う緑の空間やレクリエーションの場を整え、地域の賑わいや生活の潤いを生む都市空間を創造する。

陸・海・空の交通ネットワーク機能の拡充

活発な経済活動や、豊かで安心できる暮らしを実現するためには、異なる地域が連携できる、高い信頼性と優れた利便性を兼ね備えた交通基盤が必要になる。

新東名高速道路をはじめとする高規格幹線道路や、これと連結する地域高規格道路などの整備を進めるとともに、清水港、田子の浦港、御前崎港を一体的にとらえた「駿河湾港」の整備、運営や富士山静岡空港の機能強化を行い、陸・海・空の交通手段が相互に連結する交通ネットワークを構築する。

(2)「安全」な生活と交通の確保

地域社会から犯罪や交通事故をなくし、安全で安心できる暮らしを実現することは、県民共通の願いであるとともに、県民一人ひとりが取り組まなければならない重要な課題である。

このため、行政、警察、県民、事業者が連携し、人々を犯罪から守る防犯活動や交通事故の少ない安全な交通社会を目指す総合的な対策を進める。

官民協働による犯罪に強い社会づくり

犯罪の起きにくい社会の実現のためには、互いに見守り合い、助け合う「防犯まちづくり」が重要となる。

県民の防犯意識を高め、自主的な防犯活動を促進するとともに、犯罪の防止に配慮した都市環境の整備を図り、官民一体となって犯罪の起きにくい「まちづくり」を進める。

また、関係機関と連携し、犯罪被害者等に対する支援を充実する。

こうした取組により、官民協働による犯罪に強い社会づくりを行う。

総合的な交通事故防止対策の推進

交通事故は、人々の生活のみならず社会的にも大きな損失をもたらす。

このため、交通ルールの遵守、交通マナーの向上など、県民一人ひとりの交通安全意識の高揚を図り、特に、高齢者や子どもといった交通弱者の安全に向けて、人に優しい交通環境を確保するとともに、悪質・危険運転者排除対策を強化するなど、総合的な交通事故防止対策を推進する。

犯罪発生を抑える警察力の強化

県民を犯罪や交通事故から守るためのマンパワーを強化し、変動する治安情勢に的確に対応できる強い執行力を持つ捜査と防犯等のプロ集団づくりを進める。

殺人などの凶悪犯罪をはじめ、県民の身近で発生する街頭犯罪、組織犯罪、サイバー犯罪、テロなどの検挙・抑止対策を戦略的に進めるとともに、警察の執行力をフルに生かすため、体制の整備、科学捜査や情報通信システムの高度化、機動力の強化、各種装備資機材の充実整備等を計画的に進める。

(3) 地域主権を拓く「行政経営」

“ふじのくに”の自立した行政経営のため、県民が行政に参画しやすい環境づくりと市町の自立の促進を図りながら、多様化・高度化する県民ニーズに的確かつ柔軟に対応した取組を展開していくことが必要である。

このため、国と地域、行政と民間の役割分担やこれまでの行財政改革の成果を踏まえつつ、県民の理解と参画が得られる、透明性の高い、効果的、能率的で、戦略的な行政運営を進める。

透明性の高い行政運営

県民が地域に関心を持ち、地域のために自ら考え行動していくためには、地域づくりに関わる行政情報が入手しやすく、分かりやすく、意見が言いやすいなど、行政運営の透明性が高いことが不可欠である。

効果的で分かりやすい情報提供等により、県政に関する県民の理解を促進するとともに、地域の課題を積極的に把握し、県民の意見を施策に反映させることにより、開かれた県政を推進する。

効果的で能率的な行政運営

地域の課題は地域で解決できる能力、体制の確保や多様化、高度化する住民ニーズに迅速かつ的確に対応できる生産性の高い行政が求められている。

権限・財源・人材の三位一体による県から市町への権限移譲など、地域が自立できる行政体制の整備、目的達成に柔軟に対応できる簡素で能率的な組織の確保、民間事業者の創意工夫や多様な主体との協働を生かすことによる県民サービスの質の向上を図り、効果的で能率的な行政運営を行う。

未来を見据えた戦略的な行政運営

厳しい行財政環境が続く中、限られた資源で高い成果が得られる取組や、持続可能な公共サービスの提供が望まれている。

優れた企画立案能力などを備えた人材の育成と活用とともに、歳出のスリム化と歳入の確保などによる将来に渡って安心な財政運営を堅持し、成果の重視と市町との協働を進め、戦略的な行政運営を展開する。

地域づくりの基本方向

1 基本的考え方

(1) “ふじのくに”を支える特色ある地域圏の形成

本県の各地域が有する多彩な「場力」を最大限に活用し、都市間等の機能分担と相互連携により、全国的、世界的レベルの特色ある魅力を備えた地域圏の形成を進める。

この各地域圏が相互に機能を分担・補完、連携し、県全体として、多様な地域性が調和する高質で多彩な機能を備えた「富国有徳の理想郷“ふじのくに”」を形成する。

個性と魅力を備えた多彩な地域圏の形成

各地域が有する伝統、文化、自然等の「場力」を磨き上げ、産業等の特色ある機能を集積することにより、個性と魅力を備えた多彩な地域圏を形成する。

圏域内では、質の高い都市サービスと恵まれた自然環境等を生かしたゆとりある生活との両立を図るため、海から山に至る地域の都市と農山漁村との交流・連携により、人と自然が共生する美しく暮らしやすい多自然居住地域の形成を図る。

また、富士山静岡空港等の広域的な交流基盤を最大限に活用し、ヒト・モノ・情報等が活発に行き交う地域づくりを促進する。

広域的な求心力を備えた力強い地域圏の形成

東西の大都市圏の影響を受けやすい環境下にあって、圏域外にも影響を及ぼす広域的な求心力を備えた力強い地域圏を形成する。

このため、地域圏全体としての機能強化に資する高次都市機能等の集積により、地域圏の中心地域の拠点性を高める。

地域圏内及び地域圏間の相互連携の促進

交流・連携を促進する交通ネットワークや情報ネットワークの充実を図り、各地域圏内及び地域圏間の相互の連携を強化する。

また、高速ネットワークを生かし、県境を越えた周辺地域との連携や、日本海側の地域との南北交流、就航先の国内遠隔地、東アジア地域との交流の深化に努め、日本の真ん中で存在感ある広域的な交流圏の形成を促進する。

(2) 多様な主体の参加と協働による“ふじのくに”の地域づくり

地域づくりにおいて市町が果たす役割は今後ますます大きくなることを踏まえ、県は、より高度で広域的な行政を展開するなど、県と市町の役割を明確にしつつ、相互に緊密な連携を図りながら地域づくりを進める。

また、地域住民、NPO、企業等の多様な主体を地域づくりの担い手と捉え、行政と有機的に連携する新しい静岡方式の仕組みを構築し、協働による開かれた地域づくりを促進する。

2 地域圏

(1) 地域区分の考え方

東西の大都市圏の大きな影響を受けやすい環境下において、将来に向けて自立的、持続的に発展可能な“ふじのくに”を支える、日本の真ん中で存在感を発揮する地域づくりを進める観点から、都市機能等の集積のメリット等を考慮し、政令指定都市並みの人口規模(70～100万人程度)を目安とし、次の視点に立って地域圏を設定する。

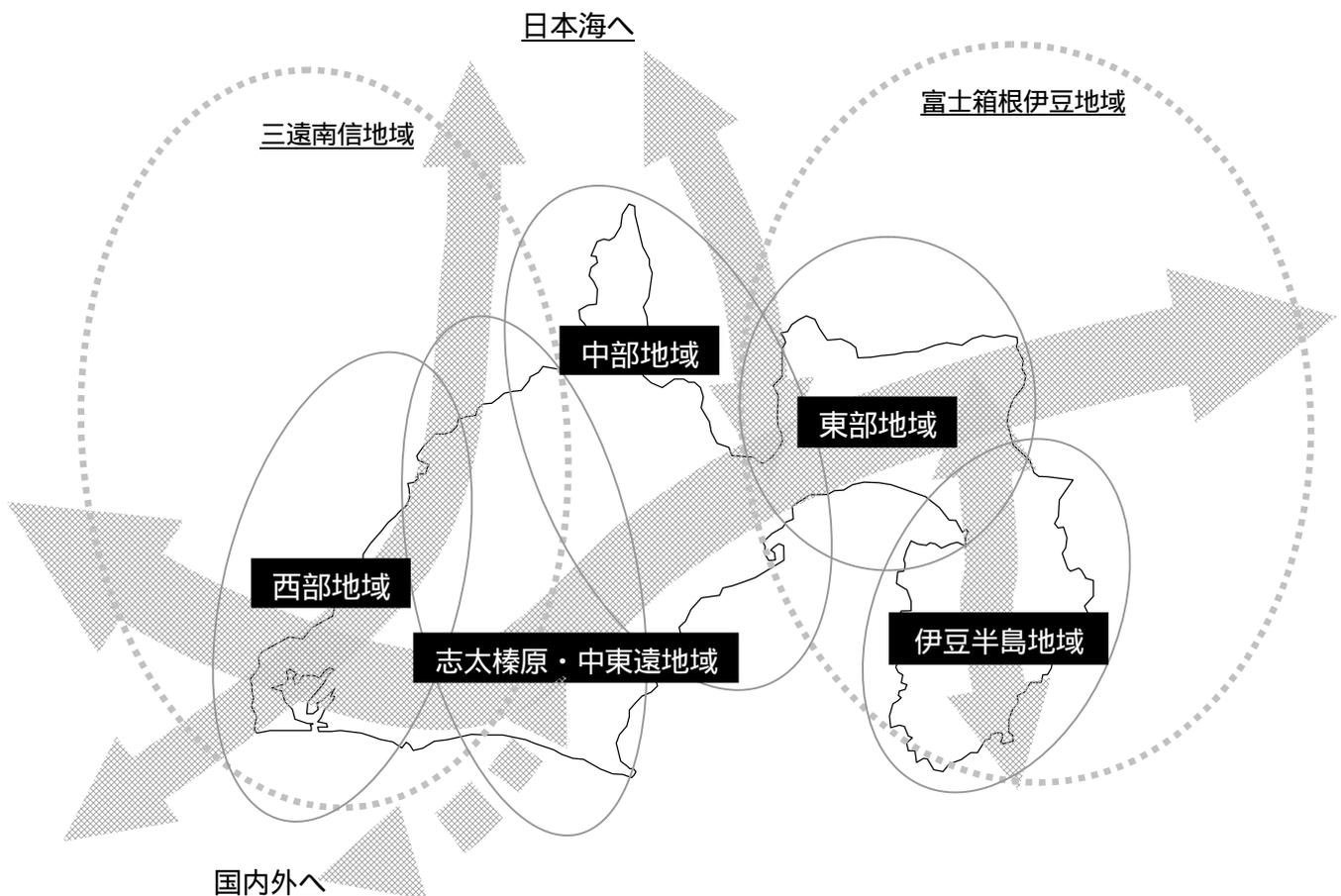
- 県と政令指定都市（静岡市、浜松市）との連携・役割分担による地域づくりの必要性
- 東部地域における都市間連携による広域的な地域づくりの必要性
- 富士山静岡空港周辺地域における新たな地域発展に向けた地域づくりの必要性
- 伊豆半島地域における観光等の特性を踏まえた地域振興の必要性

(2) 地域区分

(1)の考え方に基づき、次の5地域を目安とし、地域づくりを進める。

ただし、圏域は、様々な機能に応じて重複的かつ重層的に存在し、また、社会経済情勢や、交通・情報通信網、産業構造等の動向等に伴い絶えず変化するとともに、今後、道州制をはじめ、地域構造の変化につながる動きが活発化していくことが見込まれる。

したがって、地域区分は厳密に区切られるものとは捉えず、更なる広域化の動きに柔軟に対応し、ボーダレスな視点から広域的な施策を展開する。



3 地域圏の目標

(1) 伊豆半島地域 『世界レベルの魅力あふれる自然を生かした観光交流圏』

地学的な独立性と特徴ある歴史・風土を有する伊豆半島の「場力」を生かし、地域が一体となった新たな国際観光地の形成を図るとともに、日常生活の拠点となる都市と美しく豊かな自然に恵まれた農山漁村との一体的な地域づくりにより、住む人にも訪れる人にも快適で魅力的な地域を創造する。

また、交通ネットワークの整備等により東部地域との連携を強化し、東部地域と一体になった地域形成も視野に入れ、広域的な地域づくりを促進する。

< 主な施策の基本方向 >

豊かな自然環境を生かした世界的な観光交流圏の形成

地域が一体となった世界ジオパークへ向けた取組等を促進し、新たな伊豆ブランドの創出を図るとともに、富士山静岡空港等を効果的に活用して交流人口を拡大し、世界に輝く国際観光地・伊豆を形成する。

東部地域はもとより、神奈川県、山梨県との連携を強化し、富士箱根伊豆地域としての魅力を一層高め、国内外への積極的な情報発信を図る。

個性ある「場力」を引き出す多彩な産業づくり

観光産業と農林漁業が連携し、花き、わさび、しいたけ、キンメダイ等の農林水産物のブランド力の強化や、農山漁村景観など農林漁業資源を有効に活用した観光農園や体験型観光ツアーの提案など、地域の特性を生かした取組を促進する。

温泉等の多彩な資源や環境を生かし、ファルマバレープロジェクトと連携した新たな健康関連産業の創出や誘致による国際的な健康保養地づくりなどの取組を促進する。

住む人にも訪れる人にも魅力的な快適空間の創造

半島の豊かな自然の保全や多面的機能を発揮する棚田、里山、森林等の保全・整備の推進により、美しい地域景観の形成や人の暮らしと自然との共生を促進する。

水環境の保全対策や医療体制等の充実により、良好な生活環境基盤の形成を図るほか、河川、海岸の水辺を活用した公園等の整備を促進するなど、都市サービスと美しい自然環境を併せて享受する豊かな暮らしを実感できる、伊豆の魅力を高める環境づくりを進めるとともに、定住・交流居住の促進を図る。

観光交流圏の形成を促進する交通・情報等のネットワーク化

伊豆縦貫自動車道の整備の促進や、世界をつなぐ富士山静岡空港からの海上交通ルート等の充実、港湾の整備の推進、首都圏等からの鉄道アクセスの利便性向上など複数の交通手段を組み合わせることにより、世界的な観光地にふさわしい交通ネットワークの充実を図る。

住民生活の基盤であり、災害時の緊急輸送路としても重要な地域内の主要道路等の整備、バス路線の維持・確保など地域内交通の利便性の向上を図る。

高度情報通信ネットワーク社会への対応と観光交流圏の形成を図るため、光ファイバ等を利用したブロードバンドのサービスが利用可能な地域の拡大など情報通信基盤の整備を促進する。

(2) 東部地域 『日本のシンボル富士山を世界との交流舞台とした健康交流都市圏』

人々を惹きつける日本一の富士山を仰ぎ、世界的な観光地を有する富士箱根伊豆地域の中核都市圏にふさわしい、商業、コンベンション、教育など高次都市機能の充実とともに、医療健康関連の研究開発や産業集積の促進による一大医療・健康ゾーンの形成を図り、世界との交流舞台となる魅力的な拠点地域を創造する。

また、地域内では、一体的な「100万人都市圏」を形成するとともに、伊豆半島地域や県境を越えた周辺地域を含めた「200万人都市圏」の形成も視野に入れ、広域的な交流・連携を促進する。

<主な施策の基本方向>

世界との交流舞台となる魅力ある健康交流都市圏の形成

日本のシンボル富士山を仰ぎ、首都圏に近接し、山梨県・神奈川県との交流の中心地域であるという環境を生かし、国内外からの交流人口の拡大を図り、世界との交流舞台となる一体的な都市圏を形成する。

コンベンション等の高次都市機能の集積により、圏域の求心力を高めるとともに、各主要都市は、駅周辺の都市機能の高度化と、医療健康関連産業の集積を図るなど、地域の個性を創出するまちづくりを行い、都市間等の効果的・効率的な機能分担・補完による魅力的な都市圏を形成する。

ファルマバレーなど産学官の連携による活力ある産業づくり

健康や医療、医薬品産業の集積を図るファルマバレープロジェクトを一層推進するとともに、産学官の連携強化による共同研究の推進や人材育成等による地域企業の研究開発力の向上等を通じて、地域産業の高度化を図るほか、製紙等の地場産業においては付加価値の高いものづくりを促進する。

畜産物や富士ひのき、ひもの等の農林水産物のブランド化や、農林漁業と食品加工業、健康・医療産業、観光との結合による新たな取組を進め、地産地消を軸にした地域産業の活性化を促進する。

富士山をはじめとする多彩な資源を生かした魅力づくり

富士山の世界文化遺産登録への取組を推進するとともに、その豊かな恵みを後世に継承するため、多様な生態系の保全等の様々な活動を展開する。

富士山麓等の名所や豊かな自然、歴史文化等を生かし、富士山ブランドの創出に向けた取組を促進する。

伊豆半島地域や、神奈川県、山梨県との交流・連携を強化し、「富士箱根伊豆交流圏構想」の着実な推進を図るとともに、富士山静岡空港を活用した周遊・滞在型の観光

ルートづくりなど、広域的な観光交流の取組を促進する。

健康交流都市圏の形成を促進する交通・情報等のネットワーク化

新東名高速道路や東駿河湾環状道路、地域内の主要道路の整備を推進するとともに、鉄道駅及び駅周辺の機能強化や鉄道の輸送力の増強の働きかけ、バス等の利便性向上、田子の浦港の港湾機能の高度化など、交通ネットワークの充実を促進する。

高度情報通信ネットワーク社会への対応と健康交流都市圏の形成を図るため、光ファイバ等を利用したブロードバンドのサービスが利用可能な地域の拡大など情報通信基盤の整備を促進する。

(3) 中部地域 『日本の理想郷“ふじのくに”の県都にふさわしい中枢都市圏』

“ふじのくに”の県都にふさわしい、商業、情報、コンベンション、芸術文化など高次都市機能の充実や、大学のまちづくり、伝統に根ざした特色ある産業の育成等により広域的な求心力を高めるとともに、都市部から中山間地域まで含む自然豊かな政令指定都市としての特徴を生かしながら、ふじのくにの中核機能を担う拠点地域を創造する。

また、ふじのくにの中核都市圏として、県内や国内各地、海外とヒト・モノ・情報が行き交う多彩な広域交流を促進する。

<主な施策の基本方向>

“ふじのくに”の県都として求心力のある中枢都市圏の形成

県都の中核都市圏として求心力のある高次都市機能を備えた、国内外とヒト・モノ・情報が行き交う活力ある交流拠点の形成に向けて、駅周辺の商業・業務機能の高度化や、学・住一体の「カレッジタウン」など新たな都市拠点づくりを促進する。

また、高度医療やスポーツ拠点の充実を図るとともに、都市と中山間地域との交流により自然の潤いを享受できる都市圏を形成する。

フーズ・サイエンスヒルズなど産学官の連携による活力ある産業づくり

フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトを一層推進し、産学官の連携を強化することにより、茶、みかん、かつお等の地元産品の機能性等を活用した製品開発を進めるほか、地域産業の技術の高度化や付加価値の高いものづくりの促進、新たな産業の創出を図る。

サクラエビや茶、木材等の多彩な農林水産物のブランド力を強化するとともに、地域の大学や企業等との連携による新たな魅力づくりと地産地消の推進により、地域産業の活性化を促進する。

駿河湾から南アルプスまでの多彩な資源を生かした魅力づくり

奥大井・南アルプス地域におけるエコ・ツーリズム等の推進や南アルプスの雄大な自然の保全を図る取組等を促進する。

駿河湾から南アルプスまでの多種多様な自然、東海道の町並み等の歴史文化、舞台芸術公園等の芸術文化など、特色ある地域資源を組み合わせた魅力づくりや、国内外

の文化・学術会議やイベントの誘致・開催など、広域的な交流の取組を促進する。

中枢都市圏の形成を促進する交通・情報等のネットワーク化

新東名高速道路や中部横断自動車道の整備を促進するとともに、都市的地域と中山間地域との交流・連携に欠かせない南北道路等の整備の推進、鉄道やバス等の利便性向上、清水港の港湾機能の強化、富士山静岡空港と伊豆半島を結ぶ海上ルートの充実など、交通ネットワークの高度化を促進する

高度情報通信ネットワーク社会への対応と中枢都市圏の形成を図るため、光ファイバ等を利用したブロードバンドのサービスが利用可能な地域の拡大など情報通信基盤の整備を促進する。

(4) 志太榛原・中東遠地域 『世界に羽ばたく“ふじのくに”の玄関口を担う 新たな多極分担型交流圏』

個性豊かな中小都市の機能の分担・補完、相互連携のもとで、富士山静岡空港や御前崎港、新東名高速道路等の交通ネットワークの活用により、都市機能の高度化や特色ある産業集積等を図るとともに、広大な魅力あふれる自然空間と都市空間が調和する本県の新たな玄関口にふさわしい魅力的な地域を創造する。

また、陸・海・空の交通ネットワークと多彩な地域資源を生かし、国内外との観光・文化・スポーツなど多様な交流を促進する。

<主な施策の基本方向>

世界との玄関口にふさわしい個性豊かな魅力ある多極分担型交流圏づくり

圏域内各都市の駅周辺の商業や文化等の都市機能の高度化をはじめ、特色ある産業集積、歴史文化や自然、高品質な農林水産物等の地域資源を生かした個性と競争力のあるまちづくりを推進するとともに、相互の機能分担・補完、連携により地域の魅力を一層高め、富士山静岡空港を核とした多極分担型の一体的な地域づくりを促進し、世界に開かれた交流圏を形成する。

陸・海・空の交通基盤を活用した多彩な産業集積地域の形成

陸・海・空の交通が結節する地域としての優位性を生かし、国内外との経済交流やフーズ・サイエンスヒルズプロジェクトを推進するほか、外資企業等の集積の促進、産学官の連携強化による共同研究の推進や研究開発力の向上等を通じて、地域産業の活性化、国際競争力のある産業の育成、新たな産業の創出を図る。

温室メロン、高級リーフ茶など県内有数の農芸品や焼津漁港を中心とした水産物、大井川流域の木材・林産物のブランド力を強化し、交通基盤を生かした販売戦略を進め、付加価値の高い農林水産物の生産拠点としての産地づくりを促進する。

奥大井や駿河湾・遠州灘等の多彩な資源を生かした魅力づくり

奥大井地域等の森林景観、大井川流域等の田園景観、牧之原台地等の茶園景観など、

広大な魅力あふれる自然空間と空港等の都市機能が調和する「ガーデンシティ」として、一体感のある地域づくりを促進する。

塩の道・秋葉街道等の歴史文化、豊富な食材、大井川鉄道、エコパをはじめとするスポーツ施設など、多彩な地域資源を活用し、駿河湾・遠州灘から奥大井までの南北軸の連携の促進により地域の魅力を高め、国内外との観光・文化・スポーツなど多様な交流を促進する。

多極分担型交流圏の形成を促進する交通・情報等のネットワーク化

空港機能の充実を図るとともに、新東名高速道路や、東西及び南北の道路の整備、御前崎港の港湾機能の強化を推進し、陸・海・空の交通ネットワーク化を促進する。

また、空港との直結により、更なる利便性の向上が期待される新幹線新駅の設置に向けた働きかけ、大井川鉄道や天竜浜名湖鉄道をはじめとする鉄道やバス等の利便性向上などを促進する。

高度情報通信ネットワーク社会への対応と多極分担型交流圏の形成を図るため、光ファイバ等を利用したブロードバンドのサービスが利用可能な地域の拡大など情報通信基盤の整備を促進する。

(5) 西部地域 『世界トップクラスの環境技術や多彩な文化で最先端をいく躍進都市圏』

“ふじのくに”及び三遠南信地域の中核都市圏にふさわしい、商業、音楽文化、教育など高次都市機能の充実と新成長分野である環境産業等の創出を図るとともに、中山間地域まで含む自然豊かな都市の魅力づくりや、浜名湖を中心とした国際観光地としての知名度の向上を図り、ヒト・モノ・情報が行き交い、世界をリードする新たな価値を生み出し躍進する拠点地域を創造する。

また、県境を越えた周辺地域を含めた「250万人都市圏」の形成も視野に入れ、広域的な交流・連携を促進する。

< 主な施策の基本方向 >

世界をリードする新たな価値を創造する躍進都市圏の形成

三遠南信地域の中核として、本地域の広域的な都市拠点となる駅周辺の活力ある中心市街地の整備や大学のまちづくり等を促進するとともに、浜名湖や天竜川等の風光明媚な自然のもと、世界をリードする元気なものづくり産業と豊かな文化が融合し、国内外から人を惹きつける新たな価値を創造する躍進都市圏を形成する。

環境産業やフotonバレーなど産学官の連携による活力ある産業づくり

世界トップクラスのものづくり技術を環境等の事業分野で活用するとともに、フotonバレープロジェクトを一層推進するほか、産学官のネットワークの充実、研究開発力・デザイン力の強化等を通じて、輸送用機器、繊維、楽器等の地域産業の技術の高度化や付加価値の高いものづくりを促進する。

野菜、みかん、花き、浜名湖のアサリ、天竜スギ等の多彩な農林水産物のブランド力の強化や地産地消、光産業など新事業分野の技術力の農林漁業への導入による6次産業化など新たな産業展開を促進する。

浜名湖や天竜川、森林等の多彩な資源を生かした魅力づくり

浜名湖や遠州灘、天竜川、北遠地域の広大な森林等の豊かな自然環境の保全と活用を図りながら、民俗芸能等の歴史文化や音楽文化、世界的な製造業の集積によるものづくり文化など、多彩な地域資源を生かし、都市的地域と中山間地域との交流・連携の促進により、地域の魅力づくりを推進する。

愛知県や長野県との交流・連携を強化し、三遠南信地域としての魅力を一層高め、富士山静岡空港を活用した国際観光ルートづくりなど、広域的な観光交流の取組を促進する。

躍進都市圏の形成を促進する交通・情報等のネットワーク化

新東名高速道路や三遠南信自動車道の整備を促進するとともに、都市的地域と中山間地域の交流・連携に欠かせない南北道路等の地域の主要道路の整備の推進、天竜浜名湖鉄道をはじめとする鉄道やバス等の利便性向上など、交通ネットワークの充実を促進する。

高度情報通信ネットワーク社会への対応と躍進都市圏の形成を図るため、光ファイバ等を利用したブロードバンドのサービスが利用可能な地域の拡大など情報通信基盤の整備を促進する。

県民幸福度の最大化に向けた重点取組

“ふじのくに”が目指す「県民幸福度」の最大化、そのための「住んでよし 訪れてよし」、「生んでよし 育ててよし」、「学んでよし 働いてよし」の理想郷の実現に向けて、次の6点について総力を挙げて重点的に取り組む。掲げた6項目は、本県の地域力を十二分に引き伸ばすための重点テーマであり、ポスト東京時代の国づくりの先導役を担う気概を持って、地域主権の新モデルとしての“ふじのくに”づくりに挑む。

1 家・庭一体の住まいづくり

(狙い) 本格的な人口減少が見込まれる時代にあって、より多くの人を惹きつけ、人を呼び込み、定住する人を増やすことが重要となるが、その大きな磁力となるのが「住まい」の快適性である。

(方向) 「住んでよし」の理想郷を実現するため、暮らしの基本となる「住まい」は、ライフスタイルやライフステージに応じて、住まう地域や住まいの形態、規模など、多様な選択ができる社会であることが必要であるが、“ふじのくに”ならではの魅力を生かすことのできる、「垂直から水平へ」、「コンクリートから大地へ」との発想を重視して、生活と自然が調和する家と庭一体の住まいづくりを提案し、人々を惹きつけていく。一人ひとりの住スペースの拡充や、住まいの周辺で木々の温もりを感じられる環境を充実し、家庭の絆の回復に通じる土台を整える。あわせて、快適な住環境を少ない負担で享受できるよう、「所有から利用へ」という考え方を新たな生活スタイルとして提案し、実現への条件を整えていくことで定住へと結び付けていく。さらに、各地のコミュニティの活性化を進めながら、地域の魅力を一段と高めていき、都市と農山漁村との往来を活発にする中で、県外からもより多くの人に移り住んでくるよう、大都市圏にない緑に親しめる「大地に根ざした住まい空間」を提供し、“ふじのくに”の定住促進を図る。

2 観光交流人口の倍増

(狙い) 観光は、地域経済を活性化し雇用創出をもたらす豊かさを生む産業として大きく寄与する。また、国内外の人々との交流は、相互理解を深め、活力を呼び込む力となる。

(方向) 「訪れてよし」の理想郷を実現するため、自らが潜在価値としての「場力」を再認識し、その特性を生かして魅力ある地域を形成することで、“ふじのくに”の光を多くの人に観(魅)せる。さらに、ニューツーリズムの創出や「食の都」づくり、観光産業にかかわる人材の育成、旅行の円滑化を支える交通ネットワークの充実により、もてなしの心があふれる地域づくりを進め、観光交流人口を飛躍的に増やしていく。

3 出生率の向上

(狙い) 少子化の進行は、社会の活力低下を深め、社会経済の持続可能性を揺るがす大きな要因となり、次代を担う子どもたちが増えていくことは、将来への明るい展望へとつながる。

(方向) 「**生んでよし**」の理想郷を実現するため、母と子の健康の確保や保育環境の整備はもとより、子育て家庭の経済的負担の軽減、地域ぐるみによる子育て支援の充実を図る。また、男女ともに協力して子育てしていく考え方やそのための働き方の見直し、青少年に対する家庭の役割や次代の親となる意識の啓発などを進め、出生率の向上につながる取組を総合的に推進する。さらに、県内で高い出生率の向上を達成している自治体に着目し、これを顕彰するとともに優れた点を明らかにし、出生率向上への成功モデルとして普及を図る。

4 地域医療の再生

(狙い) 安心して子どもを育てることやいつまでも健康な生活を送ることの基本は、安全で質の高い医療を必要に応じて利用できる状態を維持することであり、医師不足等による医療崩壊が危惧される中であって、地域医療の建て直しが希求される。

(方向) 「**育ててよし**」の理想郷を実現するため、周産期医療や小児救急医療などの充実により、安心して子育てができる環境を整えるとともに、3大死因であるがん、心疾患、脳血管疾患の早期発見・治療、訪問医療・看護によるきめ細かな医療サービス、迅速な救急医療、災害医療など誰もがいつでも適切な医療を受けられるよう、医療の偏在を解消し地域医療を再生する。さらに、医科大学・医学部の誘致や医療従事者の就業環境の改善などにより、医師をはじめ必要とする医療従事者の確保を図る。

5 創造力を生む「学びの舞台」の展開

(狙い) 将来への閉塞感が漂い、地域社会や経済が疲弊する中、人々の心の豊かさや産業活力の源となる人間力を高めていくことが、地域社会の新たな創造的発展につながる。地域全体を「学びの舞台」とする大きな仕掛けが求められる。

(方向) 「**学んでよし**」の理想郷を実現するため、誰もが感動し刺激を受けるような本物の芸術文化に数多く触れる機会を提供していくとともに、地域に根ざした文学や地域学を創出することで、郷土愛や地域に対する誇りを養っていく。また、次代を担う子どもたちが、良好な人格形成と確かな学力を育むよう、少人数学級等による充実した教育環境を整えるとともに、学住一体のまちづくり(カレッジタウン)を進めることで、質の高い文化・学術のある風土を定着させ、“ふじのくに”の創造力を生む「学びの舞台」を展開する。

6 新たな産業のフロンティア開拓

(狙い) 豊さを生む産業力を将来にわたって維持向上させていくには、地域経済を牽引する新たな産業の創出が必要であり、そのフロンティアとして内なる場力や需要に着目し、新結合の発想で新たな価値を創造していくことが重要となる。

(方向) 「働いてよし」の理想郷を実現するため、食と農を軸にした新しい産業興し、食の安全やフードマイレージ・ウッドマイレージの観点も踏まえた地産地消の推進、耕作放棄地・荒廃森林の再生などにより、「ふじのくにグリーンニューディール」を戦略的に進め、「食材の王国」と「農の理想郷」を築く。また、「ものづくり」の視点に立った「ものづくり」の発想で、商品開発力や技術力を高めていくとともに、新たな成長分野となる健康産業をはじめ、環境技術力を活かした産業の創出を図り、ものづくり産業をより強固なものとするイノベーションを起こしていくことで、新たな産業のフロンティアを開拓する。